

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.7 2004年12月20日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校(東横線祐天寺駅、JR目黒駅下車)
電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804 郵便振替口座 00190-1-85761 「聖契神学校」

タイトルの「学び舎」は、広辞苑によると「学舎」が正しいようなので、本号よりふりがな付きで訂正します。
主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。

学生会が玄関に飾った七色変化のツリーも、冬休みに入り閑散とした建物で寂しげです。元気なのは娘が育てている「ツタンカーメンの紫エンドウ」で、玄関前に身の丈1mを超えた鉢二つ。

さて、なんとかなだれ込んだクリスマスと年末年始は、学生も教師も充電の時期。学びの整理にレポートに、そして祈りに励む日々でしょう。すっきり整えられ、休み明けを迎えたいですね。

「そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」(ヨハネ8:32)

校長 関野祐二

● 献身者の集い／新約聖書のユダヤ教的背景セミナー余話

今年も献身者の集いには大勢の方々が来校されました。私の担当する公開授業「新約神学」は、前週が台風による臨時休校で後期の初日。元々定義や枠組みを決めにくい科目なので、見学の方々にもわかるよう説明するのは至難の業。なぜかチャペル説教者の卒業生・松原智師や履修済みの在校生も見学者に混じってニコニコ。仕返しではなく応援団と解釈しました。学生会による歓迎昼食会では、園芸主任A姉が時間を超越した証し。学ぶ喜びと神学校への期待に圧倒されました。

午後は、新約聖書のユダヤ教的背景セミナー第1回。講師の井上誠師、いつもはいやしクラス筆頭の牧会カウンセリング教師ですが、この日は全く中間時代の顔(どんな?)。9回連続クラスの準備はさぞ大仕事だったことでしょう。「質問を歓迎します」のことばにウソはなく、聴衆からの質問攻めにますます脂が乗った講義でした。続く8回は土曜午後の教室。講師の背広の襟にタイピンマイクを付けてMD録音するのが私の仕事です。「お帰りは前のドアからよろしく」とは、講師と握手の別れをするためでした。井上師だと全く自然なのが不思議(私には似合いません)。ともあれ、大好評のうちにセミナーは終了しました。来年度も何かを企画しますので乞うご期待。

● 火曜は朝からカレーの匂い

後期火曜午前は、宣教学Ⅱ／説教学A／旧約緒論が並行する、学生総数が最多24名の時間帯。何とか交わりの機会を増やそうと、寮生H兄の尽力で昼食会がスタートしました。食堂で学生教師事務員もいっしょの昼食、これは就任当初から私の思い描いていた理想風景のひとつ。ビーフ、ポーク、シーチキン、シーフードカレー、果てはその名もハヤシライスまで登場。無理のないよう、いつでも止めていいんですよ、と言いつつも、火曜朝の鍵開けで本館に入ると、前夜からの仕込みで立ち込める香りに安堵。電気がまを貸し出す代わりに、夕食まで恩恵にあずかっている我が家です。それにしても、お代わり自由のふれこみとは言え、某兄姉の食べっぷりには脱帽。クラスでは決してわからない一面ですね。その勢いがあれば、神学校の学びもなんのその。

御国の風景が、聖書には小羊の食卓として描かれていることに合点のいく、豊かな交わりです。

● 今年の学生会クリスマスは

数日前から会場設営に余念のなかったクリスマス会、今年は12月第一金曜夜でした。短縮授業で早々に新約緒論を切り上げ、食堂へ。場内が暗くなって登場したのは、白いいでたちのハンドベル奏者たち。「ずいぶん大柄の天使だな」と冷やかしたら、「大天使ミカエルです」と後期より聴講生K兄の切り返し。出だしが揃わず、「もとい！」の雄叫びで笑いを取るのはS姉。松本先生のメッセージに心満たされ、豊かな食事の後は、鋭い突っ込みでクラスをわかすY兄のパペットマペット（うしとカエルの人形お笑いコント）。「プレゼントはハウアーのレキシコン（神学生垂涎のギリシャ語辞典）かなあ」とは、いかにもでした。T姉の人間操り劇は、ウワサの通り見事な語り。ことばの端々がチクチク胸に刺さり、私も操られました。そして在籍最長不倒T兄のサクソ演奏は、クリスマスにふさわしい讃美歌。あんな楽器ケースをかついで町を歩いてみたいとは、一生叶わぬ私の夢です。じゃんけんゲームで三位入賞を果たし、棒あめをもらいました。

● 学内に吹いた、結婚・退職・担当変更の嵐（嵐？）

8月の在校生同士の結婚に続き、もうひとり結婚予定者が与えられました。11月はじめに掲示板で発表。年明け早々の土曜日、結婚式を迎えます。今年度いっぱい学びを終了されるのは少し寂しいですが、祝福が豊かにありますように。早くも、「当日は短縮授業ですか」との圧力が。

上陸台風新記録の今年、組織神学の篠原先生退職の嵐が年末に吹き荒れました。残念ですが、これも広い主のみこころと気持ちを切り替え、理事会を前に後任人事へと奔走。結果的には、私がまず前期Ⅰを担当することになりました。掲示板発表の日、校内は朝から重苦しい空気（理由をご想像にお任せ）。思いは様々（散々？）ですが、いっしょに充実したクラスを作り上げていきたいです。神学英語は新年度から赤星先生にお願いします。英語の注解書を現場で使えるように指導してください、と託しました。篠原先生には、今後も何らかの形でかかわってほしいですね。

● 本館二階廊下に春が来ました

昨年から予算取りしておいた、本館二階廊下のガスFF暖房機が、11月中旬ついに設置されました。身を縮めてコピーを取ったり、足踏みしながら廊下で立ち話をする風景は昨年で終わり。暖冬で劇的効果をアピールできないまま冬休み入りしたのが、ちょっぴり心残りでした。今のところ一番喜んでくれているのは、同じ二階に居を構える聖契教団事務員のN姉かも。なお、チャペルと食堂にエアコンを設置するプランも検討中ですが、こちらはひと桁上の費用がかかるため、具体化の時期と財的基盤を模索中。施設を午後も含めて年間稼働させ、より用いていきたいです。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 1月6日（木）に再開し、3月12日（土）に終了する後期授業が守られ、学びが充実するように。1月18日（火）の教師会が、良き交わりと情報交換の場となるように。
- ・ 献身と学びへの思いが与えられ、来春より本校で学びを始める新入生が、諸教会から多く遣わされるように（正規生10名、聴講生5名目標）。3月4日（金）入学試験のため。
- ・ 3月に卒業を控えた方々の最後の学びと、卒業後の働きと進路のため。
- ・ 新年度前期、神学英語と組織神学Ⅰをそれぞれ担当する赤星師、関野校長の準備。
- ・ 神学校が学びの充実と教師研鑽、交わりと霊的成長、運営や経済的満たし等の各面で支えられるように。学生と教師の健康、霊性、教会奉仕、家族や働きが支えられるように。